

主催者あいさつ

大会長

檀原市長

亀田 忠彦 (かめだ ただひこ)



「日本女性会議2025檀原」は、前回の倉吉大会から3年振りに開催いたしました。全国から多くの方々にご参加いただき、盛会のうちに終了することができ、ご参加いただきました皆様に改めて御礼を申し上げます。

日本国はじまりの地を謳う本市では、藤原宮跡を含む『飛鳥・藤原の宮都』の令和8年の世界遺産登録をめざしており、本大会の開催を契機に一層の機運醸成ができたものと喜んでいるところです。

本大会を振り返りますと、初日は、9つの分科会を2会場・2部構成で開催し、参加者ご自身の興味や関心の高さに応じて幅広いテーマの中から選択して頂いたことから、いずれの分科会においても、熱心に議論に耳を傾ける姿や意見交換が行われた様子が窺えました。また、翌日には各分科会の代表から大会長に対し「檀原大会の提言」を行いました。

大会2日目は、内閣府男女共同参画局長の岡田恵子氏による基調報告に始まり、続く檀原大会シンポジウムでは、元プロマラソン選手の有森裕子氏及び地元・天理大学の現役女性アスリートをお迎えし、スポーツ界でのジェンダーの課題をふまえた心身の健康とケアの重要性を確認することができました。

さらに、モデル・俳優・歌手のアン ミカ氏に「ポジティブ脳で幸せに過ごすために」と題して講演をいただくなど、ご参加いただいた皆様の記憶に残る、意義深い大会とすることができました。

また、本大会では、2日目に記念シンポジウムを開催して地元の大学生・大学院生とジェンダー平等を考えたり、最終日には、「かしはら未来会議」と題して、地元の中学生・高校生が檀原の未来について提言を行うなど、若者の柔軟な発想や地域に対する思いに感心するとともに、地域の未来を明るく感じさせるものでした。

閉会式では、大会宣言を発表するとともに、バトン伝達式では次回開催地の香川県丸亀市のご代表に、悠久の歴史を感じさせる「さしば（鬃）」をバトンとして引き継がせていただきました。丸亀市での2027年開催予定の次回日本女性会議では、全国から多くの人々が集い、実りの多い大会となりますことを祈念いたします。

本大会の開催は、本市内外において、男女共同参画の機運をより一層高めるきっかけになったと考えており、各分科会やシンポジウム、講演会で出された提言や課題は今後進むべき方向を示しており、女性の就業率向上などレガシー事業として進めていくとともに、令和9年度に策定する「第4次檀原市男女共同行動計画」に活かし、本大会の開催目的である「多様性を認め合う社会の実現」に向けた取り組みを推進してまいります。

結びに、「日本女性会議2025檀原」の開催にあたり、多大なるご協賛・ご支援を賜りました企業・団体・個人の皆様をはじめ、大会の企画運営にご尽力をいただきました多くの皆様に感謝を申し上げますとともに、本大会を契機として、全国各地で男女共同参画社会がますます発展いたしますことを祈念いたしまして、挨拶いたします。

実行委員長あいさつ

実行委員長

榎村 久子 (まきむら ひさこ)



皆さま、ようこそ奈良の橿原市へ、「日本女性会議2025橿原」に全国各地からご参加いただき、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

橿原市の女性議員の「日本女性会議を開きたい」という熱い想いから始まった橿原大会ですが、今回のテーマは、「日本国はじまりの地から未来へ～多様性を認め合う社会の実現を～」でした。

実は今回の日本女性会議は記念すべき40回目にあたります。今年2025年は1975年の国際婦人年から50年、1995年の北京女性会議から30年でした。

私事で恐縮ですが、これをしたいと思って入学したら、理工系学部には女子トイレがない！時代。保育所探し、共働きを奈良の地で始めました。そのような中、国際会議では現地のその熱気を思い出し、多様な国々の女性の現実と動きに元気づけられ、意欲が湧いてきました。

この日本女性会議は全国の各都市で開かれるところに大きな意味があることを実行委員会の皆さんと3年間の準備の中で時間が経つほど実感しました。その年の地理的位置、歴史、風土、産業と私たちの日常生活は深く関わっているからです。その特徴の一つに、奈良県の女性の就業率は全国で最下位に驚き。でも8割の女性は働く意欲があるのです。奈良県北西部は大阪のベッドタウンでもあり、通勤もあるはず。それはなぜなのでしょう？多様性を認め合い、みんなが可能性を生きられる社会を進めたい、分科会ではそれぞれのテーマで課題を共有し、これからの方向性を探りました。

9つの分科会はどの会場も盛況で、多様なテーマでそれぞれ議論され、これから未来に向けて視野と具体的方向性や提言が出されました。濃密な会議に各会場は狭い気がするほど熱気に満ちていました。すてきな分科会報告と提言をいただき、橿原市が奈良県と連携し、レガシーとして具体化していただくことを期待しています。

自ら動く、新たな課題や方向性、具体的策が見つかり、周りの人々と共有することで、人のつながりも広がり、次の行動につながってくる。その好循環が、それぞれの人の可能性と、地域や企業や社会、まちを新しく創っていく。その実感と期待をしました。

この好循環の波が、皆様の動きや思いが、橿原市から奈良県、全国に広がりますよう期待しています。“みんなが可能性を生きられる社会”を進めたい。まず自分から！

最後になりましたが、多くの団体、大学、企業、ボランティア、そして実行委員や市事務局並びに市職員の皆様に多大な、心温まるご支援をいただき心より感謝申し上げます。